

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域に溶け込み、地域の役立ち、地域社会から愛され信頼されるグループホームを創るとい地域に密着した理念をもっている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の引継ぎ時に理念を復唱し、職員同士共有し、その人なりの生活について検討、認識するよう努めている		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	広報誌を配布したり、集落の集まりに参加させていただき、ホームの理念を柱として、話をさせていただいている 家族には、入居相談か入居申込の時にホームの理念について話し、理解していただいて入居申込をいただいている		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に、ゴミ捨て場でのあいさつや地域の行事に参加し顔を覚えていただいている 公民館主催の野菜品評会にも行き、野菜を購入したりしている		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学校の入学、卒業式や地域を交えた大運動会に招待いただき、地域の赤水祭り等にも参加させていただいている又、地域の役員の方々も気軽にホームを訪ねてくださる		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方について、公民館長と福祉の話をしたり、地域の方から相談に応じたり、福祉介護保険について話をさせていただいたりしている		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	ユニット会議等で外部評価と自己評価を照らし合わせ、見直し点や注意点について取り組むようにしている		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での話し合いについて、朝の引継ぎやユニット会議で説明し、利用者の支援等に反映させている また、激励の言葉を伝え、更に気持ちを引き締め支援介護に努めるようにしている		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	南さつま市役所から会議に参加していただき、また、坊津支所も含め地域、保健やホーム運営について話をうかがい、適正な運営と地域への参加に取り組んでいる 疑問点や確認したいことなども聞き、判断を仰いだりしている		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員が権利擁護、成年後見制度の研修会に参加し、報告をしている		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、ニュースでの事例について、職員個々の感想・意見を書き、話し合いをした ことの重大性を確認し防止に努めている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約、重要事項説明書、入居時または、入居前に説明をし、疑問点や分からないところがないかお聞きし、不安がないよう納得していただくようにしている	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の中で、利用者が意見等を言われるので対応をさせていただいている 衣食住について希望されることについては、内容によりユニット会議で検討し、利用者にとって適切な支援となるよう努めている	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用料請求時にホームでの行事や動向を報告している また、体調不良の状態により、病院受診やその結果について、その都度連絡をしている	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事の時に終了後、家族の方々に集まっていただき、意見をお聞きしている この機会以外でも利用料支払いの時や、訪問時に気楽に意見等言っている 運営推進会議に家族代表も参加され意見を述べていただける機会を設けている 合わせて、意見箱の設置も行っている	来所時に話を伺ったりしているが、言葉で難しい事等あれば意見・要望書箱を設置しているので、御意見や要望を書いて入れていただき、検討してより良いホーム運営に努めていきたい
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時、職員は管理者に意見を言える状態で、ユニット会議の中でも全体で意見が出せるようにしている	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	状況に対応できるよう勤務調整をしている 特に病院送迎には職員が支援できるようにしている 人員規程より1名多くのスタッフ配置で取り組んでいる	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動は無く、離職率も低い 退職者がした場合でも、利用者への影響があるほどではない	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者がグループホーム連絡協議会の役員となり、新しい情報や研修内容の討議にも参加し、協議会研修会や社会福祉士会等の研修に職員も積極的に参加するようにしている 県認知症グループホーム連絡協議会実践報告研修会でも、事例発表をしている	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	特に、開設時に職員研修を受けていただいた地域の5箇所の施設とは連絡を続けている 夕涼み会にも他施設利用者に参加していただいたり、昨年は他施設の利用者と職員が遊びにきていただいた 今年も計画している 南さつま市、枕崎市、知覧町のグループホームを管理者、職員と回ったり、研修会の話をしたり、つながりを構築しようとしている	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	勤務予定に、希望の休日を取り入れたり、極力時間通りに帰宅できるようにしている また、体調不良や気分不良の時に休むよう勤務調整し、悩みの相談に運営者まで対応している	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、職員が資格をとるための講習会参加やそのための勤務対応を支援している	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	御家族、居宅支援事業所や病院から入居の相談を受け、御本人の心身の状態と病状、環境等をお聞きし、その後、直接面談し話を伺い、不安な部分やどのような支援が必要なのか、聞き取りや、情動等をみさせていただき、安心できるように努力している	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	他の利用者等を気にしないよう個室で相談を伺い、ゆっくり話ができるようにしている 入居後も不安な部分や気持ち等を、お聞きし安心していただくよう話し合いをしている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要と思える病院受診を受けていない方には受診を勧めたり、医療での通所が必要であれば継続の話をしたり、御本人の病状進行を遅らせるよう支援方法を考え、御家族や本人と話をさせていただいている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	基本的には、入居前に御本人、家族にホームに来て状況を実際にみていただき、他の利用者さんと話をさせていただいたりし、顔を見て安心できる雰囲気を分かっていたくようにしている		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ダゴ作り、ソバ打ち等、主役になっていただき、職員に指導し、生き生きとした表情である		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	各行事、誕生会等に参加していただき、一緒に過ごされる時を設け、本人の症状や支援状況を理解していただき、家族の援助の必要性を認識していただくよう試みている		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	いつでも家族の方が来ていただけるような雰囲気をつくり、遠距離の家族には行事等にお誘いし来所していただける機会を考え、無理をせず本人の顔を見て安心できるよう支援している		利用料ご請求時に、行事等参加された時の写真等をお送りしたり、季刊の広報誌を送付し、入居者の皆さんの様子やホームの行事を知っていただき、近況・活動を理解していただくよう発信を継続していきたい
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事がある時に、積極的に声かけし馴染みの人と会ったり、夕涼み会等に地域の方々に呼びかけ参加していただき、利用者との接点を考えている また、地域のボランティアの方々にも顔を出していただくようにしている		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事の席を、話ができるような配置にしたり、お茶や食事の後も居間で一緒に歌を歌ったり、日常の中で食事の準備や台拭き、洗濯物たたみ等関わりあいをもって生活をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	老人福祉施設に入所された方には、訪問し様子を伺ったり、病院入院で退居された方でも、ホームに家族が訪問されたりし関係が継続されている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に思いや希望を発信されているが、安心していただくよう支援を検討し行っている 困難な場合でも、話をし何を思われているのか聞くよう努めている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、生活暦、趣味等について、本人、家族や居宅介護支援専門員に聞いたり、自住宅在住の方は訪問し生活環境を見せて頂き、本人に話をお聞きして、その人の生活、生き方が把握できるよう努めている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	朝の引継ぎ時に、夜間の状態を聞き、昼間と合わせ1日の心身の状態を把握する これより入居時からの進行状態を考察し、現状でできる事を柱に、自立を支援する方法を考えている		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族からの意向と本人の意向等、懸案し担当者会議にて介護計画を説明し関係者の意見をとり入れ作成している		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じ計画の検討、見直し、変化がある場合は本人の状況とそれに対する対応について家族に説明、相談し、意見を聞き計画を作成している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に記入し、担当者会議のみならず、その都度職員間話をし、重要な点等あれば朝の引継ぎ時に報告し情報の共有をしている 介護計画の見直しにつながっている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	御家族が、病院の送迎や付添いができない時は、病院受診にお連れしている 散髪も理容師に来所願ったり、近くの理容店にお連れしたりしている また、買い物にも希望や状況を見て、一緒に出かけている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	公民館長、集落の方や民生委員の方々が来所されたりし、利用者の状況を知っていただいたり、ボランティアで書道、生花を定期的に来ていただいたりしている 近くの栗野小学校から慰問にも来ていただいている		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居時の申し込み状況により、居宅の支援専門員や病院の相談員等と入居以前の状況を含み、他のサービス利用についての必要性をも検討し、本人、家族の意向を聞き対応、支援させていただいている		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターから入居希望者の相談を受けたり、地域の要支援者の状況を聞いたり、居宅介護支援事業所の支援専門員と入居者の従前のサービス計画、これからの予測される状況について話をしたり連携をしている		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望される病院を受診しているが、他の病院受診が必要な場合には、本人、家族の了解を得て受診し、適切な治療を受けている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	夜間、個々の排泄パターンより声かけし、極力トイレで排泄していただくようにしている 下肢筋力等から、日中はトイレ、夜間はポタブルトイレに切りかえた排泄していただいている方もいる		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回程度の入浴をしていただけるよう週4回風呂の準備をしている 本人の意思を尊重しながらではあるが、体調や状態を考え入浴の判断をさせていただいている 入浴時間も、その方の望む時間に合わせている		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	話を聞いたり、状況によってはお茶を飲んでいただいたりし、落ち着いていただき就寝していただいている 状況によっては、医師に情緒不安定、不眠の相談をし、安眠への支援を行っている		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや料理の盛り付け、キッチンマット拭き等無理をしないことで、ホームでの役割・存在を感じていただくよう努めている また、歌や踊り等で楽しめる時間を持っていたりけるよう、支援させていただいている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される方は、職員と買い物に行かれることもある 金銭出納帳を作り記録している		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花摘みに出られたり、駐車場まで車を見に行かれたりする近場の方と、”お世話になりました家に帰ります”と、遠出をされる方がいらっしゃるが、危険のないよう見守り支援し、散歩という形でホームと一緒に戻って来ていただいている		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族からの外出、外泊はしていただいている ホームでも、希望を聞き妥当な場所には出かけている ドライブ、温泉、食事、吹き上げ砂丘壮、ソーメン流し、清水の魔崖物、ミカン狩り等外出している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙をかける方には、書いていただき発送している 家族等からかかってきた電話には、出ている 電話を希望される方には、状況より判断し、電話をしていただいている		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	日中は、玄関に鍵をかけず、花、草木を置き、訪問していただきやすい雰囲気としている 訪問された方には、お茶を飲んでいただき、ゆっくり話ができるように心がけている		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット会議でも話し合い、身体拘束はしていない		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は日中施錠はしない 居室は、入居者御自身が安眠のため鍵をかける方はいるが、ホーム側では利用者様の部屋として、施錠はしない ただし、他の利用者からの危険回避、安全の為に内容を話し、理解していただき一時的にかけることがある		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	特に、外出される方には注意し、状況に応じて玄関の感熱センサーのスイッチを入れている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤や消毒剤は棚の上に置き、手の届かない所に保管している また、状況によって台所の入口に柵をするようにしている		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒の危険のある方は、見守り手引き介助等している また、一人ひとり誤薬がないよう、薬包紙の名前確認し、利用者へ直接お渡しし服薬の確認もしている 居室では、火気を使用していない 食べ物を口に詰め込まれる方には、職員が介助させていただき調整し喉に詰まらないよう注意している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全ての職員が、消防署より普通救命の講習を受けている 吸引機も備え、看護師を中心として実習している 会議で、実際の緊急時に対応したことを話し、対応について確認している		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	半年に1回、通報、消化、避難訓練を行っている 避難訓練終了後には、消防士から改善や搬送方法等の指導講話をしていただいている 夜間想定の時には、地元の消防団にも参加していただいた		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	起こりうる徘徊での事故や転倒骨折の危険性について、家族等に説明させていただいている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調や情動の日変化、季節や環境等による変化については注意し、変化が認められる時は職員間で連絡通達し、迅速な対応ができる見守りをし、必要と想定される薬の確認もしている 更に、状況により看護師、主治医や病院看護師に病状報告し対応について相談している		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	認知症、不眠、精神不安定、高血圧等に対する薬を理解し、症状の変化に注意している 特に処方に変更があった場合、情動の変化、血圧や症状の変化に注意し、変化が認められれば受診するようにしている		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	乳製品を飲んでいただいたり、繊維の多いカラ芋のおやつ等を作っている		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者の状態から、声かけから歯磨き介助の支援をしている 必要な場合は、歯科医に訪問していただいている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	血糖値の高い方のご飯量、好き嫌いに合わせた食材の変更をし、一人ひとりの栄養バランスに注意している 水分量に関しては、日々摂取量を確認し、少ない方には声かけし、なるべく飲んでいただくよう努めている また、ジュース等への代替もしている		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザ、風邪、ノロウイルスの対応として、外出後と夕食前に手洗い、イソジンによるうがいをしていただいている また、昼食後に塩素で手すりや食堂の椅子、テーブルを拭いている		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は長期保管せず早く使用し、日々新鮮な物を調達するようにしている 調理用具は塩素に浸したりしている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	日中は、玄関に鍵をかけず、花、草木を置き訪問していただきやすい雰囲気としている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生花を飾ったり、季節に合った飾り物をしている 和室には、入居者御家族が作られた季節に合わせた、花絵を飾らせていただいている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂では仲の良くない方の席を考え、食後も話ができるようアレンジしたり、居間では、一人でテレビを観たり新聞をみたりされる場所がある		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御主人や家族、孫等の写真を飾ったり、使い慣れた時計や家具を置いたり、利用者の気分が落ち着くよう家具の場所をかえたりしている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	臭いが気になる場合、換気をしているが、おさまらない時は消臭剤を用いたりしている 温度調整は室温計を確認し、体調を考慮しながら空調機の調整を行っている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内、廊下やトイレ、浴槽入口までバリアフリーで、廊下やトイレ、食堂に手すりを設置している また、自立し洗面、口腔ケアが行えるよう、洗面台をかく居室に設置している		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室入口には、承諾を得てネームプレートを付けさせていただき、花を付けたりして利用者の部屋を認識していただくようにしている 衣類にも名前を書いていただき自分のもの、他の人のものと分かるように努めている 本人のできることはしていただき、声かけ、見守りで混乱、失敗のないよう生活の支援をしている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	畑の野菜や外回りの花を見たり、中央ベランダでは、夏に夕涼にスイカを食べたり七夕の飾りつけをしたりしている 冬にはクリスマスの電飾をベランダに飾ったものを見たりして楽しんでいる		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者の皆様が御自分のペースで生活していただけるよう考え、ホーム側の押し付けとならないように注意している。また、日常生活を安心して暮らしていただけるよう、利用者様が何を思い発言し行動をされているか、その表出された時または部分だけをみるのではなく、今までの背景や病状からより深く理解していくよう心掛け、支援させていただいている。介護職員は、より良い支援・介護が行えるよう、利用者様と一緒に楽しみながら生活する気持ちで、又スタッフ同士のより良い人間関係の形成に力を入れ、ストレスの少ない中での生活支援をさせていただいている。